

科目名：図画工作Ⅱ（演習） （演習・2単位）		担当教師名： 佐藤 鷹 通	使用テキスト：出版社名・テキスト名 萌文書林「保育をひろく造形表現」・榎 英子
授業の到達目標及びテーマ： 前期に実習した造形表現の基礎的知識と技能を更に高め、子どもたちの造形活動の援助に必要な力を培い、保育者としての総合的な美術の力を高める。			
授業の概要： 図画工作の内容を踏まえ版画、彫塑、立体造形の各分野に亘って保育者として相応しい基礎知識、表現力を高めるとともに、それぞれの子どもたちの造形表現活動に合った援助方法について学ぶ。			
回	項 目	内 容	
1	四季感情表現（春夏）	・ハフ切り画用紙に一辺 10 cm の正方形 4 個書き、中を縦横 5 等分して 2 cm 四方の升目 25 個を作り、季節に合った色を混色で生み出し升目をはみ出すことなく丁寧に塗る。	
2	”（秋冬）	・制作に必要な用具の扱いについては再度注意し、ムラなくバランスがとれた作品にする。特に夏の暑さと、秋の紅葉は色調が似ているので注意を要する。	
3	”（総仕上げ）	・ムラなく綺麗に塗るためのコツ、修正の仕方は授業で説明するが、必要に応じて個別に指導する。	
4	紙 版 画（版造り）	・学生たちは直ぐスマホから盗作するのではなく、対象となるものを思い出して表現する習慣を身につける。版の作り方にも工夫する喜びも体験させたい	
5	”（刷り）	・混色し新しい色を生み出す努力、版の重ね、追加等新たな印刷方法を考え試そうとする冒険も体験させたい。	
6	球果立体表現（構想）	・昨秋収穫したマツボックリ等の球果数種類、及び木の葉、紅葉葉や枯れ葉等を活用してトトロ、フクロウ、動物等の置物や壁飾りをいろいろ考える。	
7	”（制作）	・作りたいものが決まったらスマホや絵本等を参考に必要になる木片や布等も探す。	
8	”（制作）	・思い出に残る作品にするためにも必要な素材は完成前に探し、準備しておく。	
9	壁 絵（班編成・構想）	・班編成はクジ引きとし、その中で新しい人間関係を築き上げていく。教室内に掲示してある上級生や卒業生たちの作品を参考に、自分たちが表現したい作品を考える。	
10	”（構想・制作）	・思い出に残る作品にするためにも必要な素材は完成前に探し、準備しておく。	
11	”（制作）	・グループ内で完成に向けて物足りないものはないか、お互い考えを述べ合って更に高いレベルを目指して努力する。その観点からも先輩たちの作品は大いに参考になる。	
12	”（制作・完成）	・完成まで各自あきらめず努力する姿勢を持つことの喜びと充実感を実感して欲しい。	
13	窯 芸（制作）	・素焼きした器に楽焼き用絵具で絵付けし、釉薬を施し置物として普段飾っておく。もう一つは粘土を素焼きしただけの土鈴を作る。このどちらかを選択して制作する。	
14	”	・粘土作品を造る上で常に気をつけることは、制作中の粘土には絶対空気を入れない。作品には記名する。部品をくっつける部分には小さな傷をつけ泥を塗り押しつけ接続する。	
15	指導案について	・次年度を考え一年最後の授業は学習指導案についての簡単な説明。	
参考書・参考資料等： 教科書を主に過年度卒業生の作品や、掲示した自分たちの作品等を参考にして次の制作に生かしていく。			
学生に対する評価方法： 筆記試験は実施せず、ノートや表現された作品と平常点を総合して評価する。			